

俳句

古木の松並木や一里塚など、陸前浜街道の名残り
をとどめる地に棲み、四季折々の風景をスケッチし
た俳句帖より五句

元旦の街道人なく霧の松

歳末の車のラッシュも嘘のように、元朝の街道は大和絵
の如く、霧の中にかぶ。

寒の月わたる松並疎らなり

二、三年来、並木の松は立ち枯れが目立ちます。車の排
気ガスのせいでしょうか。

花散りぬ花咲きぬとて世に離り

古老が懐しむ一里塚の山桜の古木も枝を伐られ、昔日の
面影はありませんが、春を迎えて、朝日に匂う山桜の瑞
々しく、落花の美しさは、恍惚となるばかり。惜春の情

は、山吹、山つつじと次々に、花の果てしなく、世の雑
音を忘れます。

夕蟬や森遠近の松古りて

松、杉の森も、宅地造成のために急激に失われてきて
おります。

ラッシュユ去り尾長もどり来葛紅葉

尾長の姿も、昨年より見えなくなりました。

緑の文化財も、刻々と失なわれつつあります。

一色千代子